

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870501552		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 微笑の家		
所在地	新居浜市船木字上長野甲581-2 (電話) 0897-41-1838		
管理者	谷口 恵子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 10 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 16 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.8 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~45,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名
要介護 3	7 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.5 歳	最低 60 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し外れた農道を幹線とする田園風景の残る地域に立地しているホームである。隣に同法人のデイサービスセンターがあり、来年の年明け早々には小規模多機能型居宅介護事業所の運営も始まり、法人として地域の社会資源としての多機能のサービスを展開していこうと取り組んでいる。運営者は開設準備段階から自治会との話し合いを重ねており、ホームは地域と密に繋がっている。管理者や職員も、利用者のサービス向上には地域と一体化する必要性を感じており、積極的な関わりに努めている。「利用者の人たちから力をもらっています」と話す職員の姿勢からも、丁寧なケアが行われていることがうかがえる。ターミナルケアも経験しており、開設4年目ながらホームとしての成熟を感じられるホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

自己評価で多くのことを課題点として取り上げ、その改善に取り組んでいる。地域への情報発信では、ホーム便りを毎月500部発行し、公民館や公的機関に配布している。また、災害対策では消防署と連携した避難訓練を定期化したり、看護体制を強化するなど、サービス向上への取り組みには余念がない。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員が分担して自己評価に取り組み、管理者や施設長がまとめた上で、全員で話し合いを持っている。自己評価を自らのケアの見直しとサービス向上への視点として捉えており、真摯に取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は、ホームの開設準備段階から始めている自治会との話し合いがそのまま移行しており、開設4年目ながら歴史を感じることができる。議題はホームの運営や利用者に対するサービスに留まらず、運営法人の他事業についても話し合いが持たれている。運営者や管理者は、地域からの信頼が得られないとよい事業展開はできないと考えており、運営推進会議がより開かれた会となるよう努めている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

ほとんどの家族は頻りに訪問があり、その機会に管理者や職員が利用者の状態を報告している。また、家族からの意見を収集するために、意見箱の設置やアンケートの実施などの取り組みも行っているが、ホームでは家族から直接話を聞きたいと考えている。職員だけでなく、管理者や施設長が家族等に積極的に声をかけ、話に耳を傾けている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

開設当初から、自治会との話し合いやボランティアの受け入れ、地域行事への参加など積極的に地域と関わっている。今後は、日常的なご近所づきあいを利用者と近隣住民ができるように取り組んでいく予定である。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 微笑の家

(ユニット名)

れんげの里

記入者(管理者)

氏名

谷口 恵子

評価完了日

平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設時よりまごころある質の高いケアに努めその人らしさを共に考える理念となっており、運営目標が地域密着型サービスとしての理念となっています。 (外部評価) ホームは開設の準備段階から自治会と話し合いを持ち、地域の一員としての自覚を持って運営している。理念の中に地域という言葉は入っていないが、その考え方には地域が意識されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を拡大しリビングに掲示しており、勤務時に各職員が理念を読み実践するようにしています。 (外部評価) 理念を具体化するために、ユニット毎の様子に合わせて目標を設定している。また、職員は「自分だったらどう思うか」という視点でケアに取り組み、理念の実践に日々努めている。	※	達成しやすい具体的な目標を年間目標とし、リビングに掲示サブ理念としました。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 玄関入り口にも分かりやすい様に掲示しており、去年6月より理念が明記されたほほえみだよりを毎月発行し、家族や地域の方々に配布しています。	※	地域の公的機関や各居宅介護支援事業所へも毎月配布しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 駐車場や近くにある農園等で近所の方々等に会った時は気持ちのよい挨拶をする様にしており、夏祭り等のイベントには案内し来て頂いています。	※	近所の高齢者や子供さん達が気軽に遊びに来られる様な雰囲気作りや体制を心がけています。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の一員として地域の奉仕作業や行事等に積極的に参加し、日頃から関係を深めています。	※	地域の盆踊り大会や太鼓祭り等へ参加させていただいており、今後も交流を持っています。
			(外部評価) 開設当初から、自治会との話し合いやボランティアの受け入れ、地域行事への参加など積極的に地域と関わっている。ただ、イベント的な交流が多く、日々の近所づきあいができる関係が構築できているとまでは言えない。	※	管理者や職員の働きかけにより、ホーム開設後3年余りで地域に定着している様子がうかがえるため、今後は利用者が近所の方と日常的にご近所づきあいができるような取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議では、地域に貢献できる様な内容を議題に取り上げ話し合っています。	※	施設をオープンにして地域のお年寄りに場所を提供し、健康チェックや介護教室を開催し介護予防につなげていきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価結果後すぐに改善点を見直し実施し、ほぼ改善できています。	※	全体会や学習会等で評価を実施する意義を話し合い、理解した上で各自分担し自己評価をしており、毎年取り組んでいます。
			(外部評価) 評価は今回で3回目であり、管理者も職員も評価の意義を理解している。管理者から「評価項目にはいろいろな視点があることで考えさせられます」との言葉を聞くことができ、熱心に取り組んでいることがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催しており、利用者や家族代表者にも参加していただいております。 (外部評価) ホームの開設準備段階から始めている自治会との話し合いが、そのまま運営推進会議に移行しており、ホームの運営や利用者に対するサービスについて活発な意見交換が行われている。運営法人の新規事業についても運営推進会議で合意をもらうために丁寧に説明するなど、開かれた会の運営に努めている。	※	地域の方からの要望により小規模多機能施設を申請、平成20年10月より着工、平成21年2月頃完成予定となっています。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営上の問題や利用者の対応についての相談等に連絡を取り連携を持っています。 (外部評価) 利用者支援のための担当課との連携、介護相談員の受け入れなど、積極的に市担当者と連携する取り組みを行っている。	※	地域包括支援センターからの依頼である介護相談員の、相談活動を受け入れています。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の理解はできているが現在該当者は居られず、活用の推進までには至っていません。	※	職員への学習会を持ち必要性の理解を深め、利用促進が図れる様していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全体会や部会等で学習会を持ち事業所内での虐待が見過ごされることがない様に注意を払い、利用者の様子を常に観察しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を基に契約時には十分に説明を行い、理解と納得を図っています。	※	なるべく利用者も交えて不安や疑問な点が残らない様に十分に時間をかけて説明していきます
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は常に傾聴を心がけているがうまく表現できない利用者を把握し、職員で対応できない所は管理者が対応しています。	※	利用者がどんな事でもいいやすい雰囲気を作り、常に声掛けをし不満や苦情等においては管理者に報告、その都度納得のいく対応と解決に努めます。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎日の生活の様子は各受け持ちが記入し、ファイルに綴じ各居室に置き家族来所時に見ていただいたり、健康状態や金銭管理においては管理者が説明しています。 (外部評価) ほとんどの家族は頻繁に訪問があり、その機会に管理者や職員が利用者の状態を報告している。家族からも気軽に相談等がなされており、良好な関係が構築できている。また、ホーム便りを毎月発行し、家族にも郵送している。	※	毎月発行しているほほえみだよりに職員紹介のコーナーを設けており、新しい職員等も家族が把握できる様になっています。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年敬老会の後に合同家族を開催し、家族等より意見や要望を出して頂く機会を設け、運営者等と検討し早めに解決してゆく様努力しています。 (外部評価) 意見箱の設置やアンケートの実施などで意見を収集する取り組みも行っているが、家族の不満や苦情は直接傾聴することを基本としている。職員だけでなく管理者や施設長が積極的に声をかけ、家族の話に耳を傾けている。	※	玄関ホールに設置してある意見箱にアンケート用紙等を利用、記入していただく様にしています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営方針や利用者の受け入れの可否については会議等で職員の意見を聞いており、個々の職員が発言できる機会を設けています。	※	定期的に話し合いの場を設け、運営者や管理者と職員との間で意見交換ができる様にします。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 特別なイベントや外出時には必要な職員の確保ができる様に、シフト上調整を行っています。	※	管理者はフリーな立場とし急変時や家族の要望等いつでも対応できるようにしています。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動及び離職希望時には職員と話し合いの時間をもち、なじみの関係もあり最小限としています。 (外部評価) 同法人にデイサービスセンターがあるが、異動は少ない。近年は離職者も少なく、利用者との馴染みの関係が深まっている。来年早々に小規模多機能型事業所が開設されるため多少の異動の可能性はあるが、引き継ぎ等がスムーズにいくように工夫をする予定がある。	※	異動や新入職員に対しては引継ぎ等が円滑に行われる様に、数日の研修期間を設けています。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修意欲はあり体制も整ってきた為、段階に応じた育成計画を立てシフトを調整し研修機会を確保しています。 (外部評価) 職員は、内・外部の研修の他、グループホーム連絡協議会東予ブロックが行う相互研修等にも参加している。ホームも職員の研修を支援するために、勤務体制の工夫や年間計画等を行っている。	※	職員の仕事に対する意欲を高める為にも教育予算を出し研修や他施設見学等、年間計画を立てていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は新居浜地域グループホーム管理者交流会に参加し情報交換を行っており、職員は県グループホーム連絡協議会の相互研修に参加し、お互いの良い所を取り入れてサービスの質の向上につなげています。 (外部評価) 地域のグループホームが自主的に連絡会を立ち上げ、管理者レベルの交流や情報交換を行っている。今後は職員にも連絡会への参加を促し、ネットワークを広げていく予定である。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者も含め職員間でも何でも話し合いができる様に、よい雰囲気作りをしています。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、ホームに来た際、管理者や職員と必ず会話し、職員の勤務内容・態度等状況把握に心がけている。	※	運営者は管理者と話し合い勤務状況を把握し昇給等も検討し意欲の向上を図る様にしています。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用開始までの間に管理者は事前面接を行い、本人との対話を大切にし不安のない様努めています。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談時より家族の話を傾聴し、フェースシートを利用し情報収集し、家族の介護負担を共感し受け止めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めての相談時や本人との面接時にはゆっくり話を傾聴し必要な支援のアドバイス等を行い、入居においては待機状況もあるが緊急性を考慮し対応しています。	※	新居浜市では、毎月待機者数を報告し各グループホームの待機情報が把握できています。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居までにはなるべく本人にもホームを見学していただき、雰囲気馴染める様体験利用を勧めたり家族と話し合っています。 (外部評価) 新規利用者には見学や体験入居等により、ホームに馴染んでもらうよう工夫している。同法人運営のデイサービスを利用していた方は既に顔馴染みになっている場合が多く、スムーズな利用が可能となっている。緊急の場合でも、利用者同士が馴染めるように、職員が積極的に取り持つよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 各利用者のできる事を日常の会話や行動の中から確認、強制にならない様に声掛けお手伝い等していただいています。 (外部評価) ケアを業務としているのに、利用者から「ありがとう」と言われると、思わず「こちらこそ」と思ってしまうと職員は笑う。対人サービスの基本である支えあう関係を垣間見ることができ、利用者とは良好な関係が築かれていることがうかがえる。	※	これからも共に過ごし支えあう関係を築いて行けるように努めます。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方々と常に協力し本人の事を支援している事を意識し、家族が心よく訪問できる雰囲気作りに心がけています。	※	あまり面会に来られない家族へは連絡をとり、本人の希望を共有し合える関係作りに努めます。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 職員は本人と家族の関係を理解できる様に日々努め、よりよい関係が築いて行けるようにしています。	※	家族との交流が少ない方もおられますが、面会や行事の時の時間を大切にもらえる様に配慮しています。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、家族の協力も得て支援する様に努めています。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 日常生活やレク活動を通じてできており、利用者同士が関わり合い支え合える様に声掛けをし、場面作りを行っています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院等によりサービス利用が終了しても継続的な支援の必要な利用者に対しては、家族へ情報提供やアドバイスを行っています。	※	再入居の申し込みも受けており家族との関係を大切にしています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日のレクや散歩の時間に利用者一人ひとりと会話し、コミュニケーションをとり希望や意向の把握に努めています。 (外部評価) 管理者や職員は利用者とは過ごす時間が長く、仕草や会話から個々の思いを汲み取ることができている。しかし、利用者と一緒に生活している間に知れた情報の記録化はなされていないため、職員間で共有化されているかの客観的な確認が難しい。	※ ※	家族からも話を聞き、思いや意向の把握に努めケアプランに活かせる様、経過記録に記入し申し送っています。 管理者や職員は、利用者の話を丁寧に聞きとっているため、各利用者に関する多くの情報を把握している。情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、記録化して共有する取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートを参考に情報収集シートを利用、本人や家族より聞き取り把握する様にしています。	※	センター方式の情報収集シートを利用していますが、もう少し記入しやすいオリジナルシートの作成を検討中です。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 申し送り等を確実に言い少しの変化にもいち早く気付ける様、できる事やできない事等現状の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 受け持ち担当者がモニタリングを行い、アセスメントに基づいてチームでサービス担当者会議を開催し、利用者主体の目標を立て個別性のあるケアプランの作成に努めています。 (外部評価) 介護計画の素案を利用者毎の担当職員が立て、全職員での話し合いの上で、管理者や計画作成担当者がまとめている。家族や関係者にも相談しており、医療的な面はホームの看護師がかかりつけ医に相談し、介護計画に反映させている。	※	サービス担当者会議の開催時には本人や家族等も意見が出し合える様に取り組みたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月の更新時に見直しを行っているが入院など著しく変化があった場合は、早めにモニタリングを行いケアプランを変更する様にしています。 (外部評価) 介護計画は3か月毎に、また急変等があった場合はその都度見直している。計画内容の継続や見直しについては日々のモニタリングを基に検討している。しかし、モニタリングの客観的なデータは、経過記録として記載されているが、記載内容が介護記録と直結しているとまでは言えない。	※	モニタリングの資料として活用している経過記録は丁寧に記載されているため、貴重なデータとなっている。介護計画と関連させることで、より客観的な視点から利用者の現状を反映することが可能と考えられるので、取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のファイルに誰が見ても分かり易いように時系列で記録しており、介護計画の見直しに活かせる様になっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 併設のデイサービスでの行事に参加したり、介護車両を利用することにより全員の外出や個別の医療受診等の支援ができています。 (外部評価) ホームの隣には同法人が運営しているデイサービスセンターがあり、来年早々には小規模多機能型居宅介護事業所の運営も始まるため、ホームの利用者だけでなく、地域の社会資源として多機能性が発揮できる取り組みが行われている。	※	家族から宿泊の希望があれば畳を貸し出したり、食事の希望があれば一緒に食事をしていただいています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じて民生委員や市役所の介護福祉課と連携を取っています。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人や家族の意向があれば、保険外サービス等も受けられる様支援します。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 介護相談員の相談活動を受け入れており、地域包括支援センターと意見交換や情報交換を行う様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のかかりつけ医による月1回の定期検診と、週1回及び随時往診は継続しています。本人や家族の希望に沿って専門医受診等の援助も行っています。		
			(外部評価) かかりつけ医は本人や家族の希望が基本となっているが、管理者が看護師としての専門性を活かし、利用者の状態に合わせた専門医の紹介も行うなど、利用者の医療的ケアに関して柔軟で適切な対応に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の定期往診が必要な利用者の方は往診・受診を受けられる様援助しています。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットには看護師が配置されており、医療の連携や日常の健康管理はきちんとできています。	※	必要に応じ訪問看護の依頼も検討します。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は管理者が同行、病院関係者との情報交換を行い本人や家族の相談にのっています。	※	早期退院ができる様に退院に向けての担当者会議を依頼したり、連携につとめています。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に本人や家族の希望を聞いています。また利用者の状態変化がある度、本人や家族と話し合い方針を決めています。		
			(外部評価) ターミナルケアを実践しており、ホームでは高度の医療的ニーズが必要でない限りは看取りを行おうと話し合っている。家族とも利用者の状況に応じて話し合いを進め、看護師も3人体制としている。管理者は、終末期の実践から家族の協力は必須のものとの認識があり、ホーム内でのターミナルケアの方針の共有化にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者や家族の要望になるべく添える様にしてゆきたいが、医療行為等できない事を理解していただき、かかりつけ医と共にチームとしての支援は行っています。	※	かかりつけ医は家族や本人へきちんと説明を行い、緊急時にはいつでも往診や指示が受けられる様な連携体制をとっています。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 準備時より関係者間で十分な話し合いを持つようにし、管理者は必要に応じ介護サマリー等の情報交換を行いダメージの防止に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に心がけています。個人情報に記載された書類の取扱いにも気をつけています。 (外部評価) 利用者への関わりは、認知症が進んでいる利用者に対しても、すぐ否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声をかけている。また、記録の管理も専用の部屋で適切に行っている。	※	記録の書き方や接遇についての学習会は、適宜行っており徹底していきます。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) お買い物ツアー等でご自分で買いたい物が選べるように助言したり、希望等が言いやすい雰囲気作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者個々の生活リズムを把握し、利用者のペースに合わせた生活ができる様支援しています。 (外部評価) ホームとして大まかな一日の生活スケジュールは決められているが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先して支援している。また、利用者の機能維持のための日課があるが、心身の状態等を見極めながら行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣服の汚れや乱れに気を使い、外出時等は本人の好みを考慮しおしゃれや着替えができる様に支援しており、毎月出張理美容で好みのヘアースタイルにしてもらっています。	※	レクの中でおしゃれ会等を取り入れ、メイク等を支援し楽しんでいただいています。10月よりケアチェック日を決め、身だしなみに気を配る様にしました。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを把握し、偏食や嚥下障害のある方でも少しでも美味しく食べていただける様に工夫しています。 (外部評価) 口から食べることで元気になるという思いを持ちながら、利用者のペースに合わせて食事している。職員は、利用者に声をかけながら食事が楽しくなるような雰囲気づくりに努めている。自分で食べることも楽しみであると考え、職員は極力手を出さず、気長に待つ支援に努めている。	※	季節の野菜等の下準備や出来る方には調理をしていただいたり、簡単なおやつ作り等はなるべくみんなができる様に声掛け支援しています。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が望むお酒等は誕生日会や夏祭り等の時に適度に楽しんで頂く様支援していますが、喫煙は今年度より火災防止の為お断りしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各自の排泄パターンを把握し、失敗やおむつの使用が減らせる様に排泄チェック表で確認し、早めの声掛けやトイレ誘導を行っています。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 隔日にはゆっくり入浴できる様に支援しているが、利用者の希望に応じ毎日の入浴も対応可能としています。又入浴剤を日によって変えたり、楽しく入浴できる様工夫しています。 (外部評価) 入浴の時間帯は午後からとなっているが、その中で順番を変える等、利用者の希望にある程度添うようにしている。訪問調査時も、見守りの必要がない利用者が自分で用意して浴室に向かっていたが、入浴が楽しみになっている様子がうかがえた。	※	介護度の高い利用者でも、危険のない様に2人介助で浴槽に入らせていただいています。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 各自の睡眠パターンや生活リズムを把握し、その時々状況に応じて居室だけでなく和室やリビングのソファ等で、安心して休める様支援しています。	※	不眠を訴え眠剤を服用されていた方も徐々に減し、服用せずに眠れる様に日中適度な運動や環境準備を行っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのできる事を把握しできるお手伝いをさせていただいたり、生活歴等から得意な調理や野菜の下準備をしていただいています。レクの時間に楽しみながら創作活動やゲーム等ができる様にも支援しています。 (外部評価) 利用者のできる事、難しいこと、介助すれば可能なこと等を職員間で話し合い、その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みを行っている。利用者が役割を達成すると感謝の言葉をかけることで、役割がやりがいになるよう配慮している。	※	趣味が活かせる様に、俳句や書道等をレクに取り入れ、意欲がでる様に廊下に展示しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したり管理出来る利用者へは本人及び家族へ説明し、お小遣いを所持していただき職員は把握しています。本人希望の電話は1回10円預かる様になっています。	※	買い物等の外出機会を増やし、お金を所持できる方は日用品等の購入を勧め、お小遣い帳への記入等の支援もしていきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には車椅子の方も含めホーム周辺の散歩に出かけたり、近くの自農園に野菜の収穫に行ったり外気浴を勧めたりしています。 (外部評価) 管理者や職員は、日常生活の中で外気を浴びることの大切さを認識しており、散歩は日課となっている。ホーム周辺はのんびりとした田園風景であり、玄関を出ただけでも気分を変えることができる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外食やカラオケツアー・お花見等毎月計画し、利用者の要望を聞きながら家族へも声掛け、実施しています。	※	車椅子使用者等で家族だけでは外出できない利用者に対しては、事前に家族へも連絡し、一緒に外出できるように支援しています。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望の電話はいつまでもかけられる様に事前に家族の理解を得ており、リビングに設置してある固定電話を使用いただいています。	※	レクの中で家族への手紙等書く機会を設け、楽しく書ける様にしています。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族等の来所には笑顔で応対し、ゆっくり過ごせる様椅子を準備したり茶菓子等で接待しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の対象となる具体的な行為を都度管理者が説明し、職員は認識できており身体拘束をしないケアを実践しています。	※	身体拘束の弊害が正しく理解できているか、適宜認識を確認しています。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常生活の中で外出傾向のある人は把握できており、願望が強くなった時は一緒に散歩に出かけたりし対応しています。ユニットの出入り口にチャイムの鳴るセンサーがあり、外出を察知し早目に対応し日中は鍵はかけていません。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。職員の見守りと、センサーの活用で対応しており、利用者の安全には十分配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 記録等の事務処理はリビングの全体を見渡せる場所で行い、居室への巡回は頻繁に行っており、安全の確認に努めています。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、危険のないように個別に保管したり、管理を行っています。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を日頃から確認把握しており、事故につながる様な問題が起きた時にはすぐにヒヤリハット報告書を提出し、全員で安全対策について検討しています。	※	リスクマネジメントや事故防止の為の学習会を適宜開催し、職員の認識を高めています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルがあり学習会等は適宜開催していますが、実践に対しては不安もあり訓練を定期的に行う様になっています。	※	救急救命の講習を開催し全職員が指導を受けられる様に、日程調整をしていきます。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力のもと利用者と共に避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も実施しています。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議でも災害対策は話題になっており、地域との協力体制の構築のために働きかけを続けている。今後は、近隣住民を交えての避難訓練も計画しており、災害対策に積極的に取り組んでいる。	※	運営推進会議では、地域の方の協力を得ての災害時の避難訓練の実施も検討しています。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 個々の利用者のリスクを把握し、家族等へはその都度説明を行い、対策について話し合っています。	※	安全を優先して心理的な圧迫感のない様に注意していきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝食後、バイタルチェックを行い体調管理を行っている。食事量、水分量等を把握して体調変化に気が付いた時には、速やかに看護師に報告し対応しています。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの薬をケースに整理し、チェックシートに記入することで飲み忘れを防止し、指示通り服用できる様に管理し、症状の変化等の確認に努めています。	※	処方の変更になったり新しく出された時は都度申し送りし、薬確認表も訂正し薬出し時は2名で確認する様にしています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便状況と便秘傾向のある利用者を把握して、水分補給や適度な運動を取り入れています。直便秘症の方は軽い下剤の処方と排便コントロールしていきます。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後には声かけし、歯磨きや入れ歯の手入れを日常的におこなっています。	※	利用者の状況に応じ、職員が口腔ケアを介助したり必要に応じ歯科受診の援助を行っています。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分量を把握をする様にしており、バランスの良い食事の提供や確保に努めています。 (外部評価) 概略のカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては、刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事・水分共に日誌に記入し、見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 外出時の手洗いやうがいを励行し、インフルエンザの予防接種は、利用者、職員全員に毎年実施しています。	※	感染症の項目別マニュアルの見直しや定期的な学習会を検討しています。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理に充分注意をして旬の食材を取り入れ、食材は毎日買出しに行っている。台所では適宜ハイター消毒等を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前及び中庭には植物を植え、季節によって花が咲き楽しめるように工夫しており、家庭的な雰囲気作りをしています。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所・浴室・トイレは一般家庭と変わらず、リビングには和室を設けてくつろげる雰囲気にしている。季節に応じて利用者の創作品を壁に展示し、季節感を感じられる様にしています。 (外部評価) ホームの造りが全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが圧迫感がなく、小上がりのある畳の間もある。利用者の重度化を想定して、廊下は車いすがすれ違える広さであり、安心感がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには畳部屋を設けており、テレビの前や廊下のコーナーにはソファを置き、自由に思い思いに過ごせる様工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 収納スペースを広く取っており、利用者の自由に使用できる様になっている。安全に配慮しベットや畳のどちらでも対応できるようになっています。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている	※	長年使い慣れた物や思い出の品等の持ち込みを勧めており、安心して過ごせる様に配慮しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の様子を観察しながら冷暖房の温度調節をしている。天気の良い日には窓を開放したり適宜換気を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの身体機能に応じ、ベット周辺やトイレの手摺り等安全に注意し、自立した生活が送れる様に工夫しています。	※	転倒のない様、できるだけ物を置かず広くゆったりと動けるような配置を配慮しています。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口には名表をつけており、風呂・トイレは手作りのプレートを掛けわかり易く混乱しない様な工夫をしています。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物周りは自然に囲まれており、駐車場も広く整備されており散歩等いつでも楽しめる様になっています。	※	東や南側の外周はもう少し整備し、利用者がリハビリを兼ね散歩できる様にしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	日常会話の中で利用者の思いや願いを聞く様に心がけている。生活暦を把握し生活の中でその方の経験が生かされる様支援しているが、自分の意思をうまく伝えられない方もおられる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	食事時はなるべくリビングでゆっくり食べていただく様にしており、職員も一緒に会話等を楽しんでいます。レクリエーションやおやつ時にも対話の時間を取っています。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	規則正しい生活を過ごしていただける様日課スケジュールはありますが、利用者の状態や要望に対して本人のペースで生活できる様支援しています。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の趣味等を把握し、日常の会話の中でその話題に触れたりイベントや外出等楽しく過ごせる様工夫しています。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ホーム周辺の散歩等はできているが、利用者の心身の状態によりできない場合もあります。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	体調不良時には随時往診に来て頂いている。毎月の検診により利用者の健康管理を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	時間・行動等の束縛なく利用者の意志を尊重した支援を心がけており、ほとんどの家族から安心できるとの言葉をいただいております。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会時には職員から声かけし、最近の状況や当日の状況を伝えたり、家族からの希望や意見を気軽に話していただく様努めており良い関係ができています。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族の面会は非常に多い。民謡・日本舞踊・マンドリン・トランペット・大正琴等のボランティアの訪問が定期的でありデイサービス利用者の訪問もあります。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	自治会行事には積極的に参加している。又毎年夏祭りを実施し、和太鼓・盆踊り・カラオケ等地域関係者の協力が得られています。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	新しく入社した職員は仕事に慣れる・覚える事で精一杯のところがあるが、スタッフの協力や家庭的な雰囲気の中で生き活きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者各人の情報・意見は職員全員が把握できる様にし対応しており、時に不満な様子もみられますが都度満足できる様対応しています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	最近ほとんどの家族よりお礼の言葉を頂き、このままホームでの利用者の生活ができる事を希望されています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ①年中行事やお誕生日会等には、家族への案内も欠かさず行い、家族も一緒に参加できる様に家庭的雰囲気を大切にしています。
②身体拘束をせず鍵をかけないケアを実践しており、安全の確保や事故防止の為に学習会やカンファレンスを都度開催し、職員の認識を高めています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム微笑の家
(ユニット名)	菜の花畑
記入者(管理者)	
氏名	谷口 恵子
評価完了日	平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人の立場に立ちその人らしく暮らし続けられるよう、設立時より事業者独自の理念を作り、まごころあるケアの提供に努めています。 (外部評価) ホームは開設の準備段階から自治会と話し合いを持ち、地域の一員としての自覚を持って運営している。理念の中に地域という言葉は入っていないが、その考え方には地域が意識されている。	※	ほほえみの運営目標が地域密着型サービスの内容となっています。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) リビングに掲示した理念を毎朝、管理者も含み職員全員で唱和しており、理念を共有し同じ目標に向かって実践しています。 (外部評価) 理念を具体化するために、ユニット毎の様子に合わせて目標を設定している。また、職員は「自分だったらどう思うか」という視点でケアに取り組み、理念の実践に日々努めている。	※	日々理念を振り返り職員が皆同じケアの提供ができるように、今年度の目標をサブ理念としました。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の文字を大きく拡大し、玄関入口やリビングに掲示しており家族や外来者が見やすく、理解していただけるようにしています。理念が明記されたほほえみだよりを毎月発行し、家族や地域の方々に配布しています。	※	ほほえみだよりは地域の公的機関(地元自治会)や各居宅介護支援事業所へも毎月配布しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者との散歩等で近所の方等に会った時はきちんと挨拶するようにしており、夏祭り等のイベント時には案内し多くの方にきていただいております。	※	催し物等の時は地域の各施設や地元自治会に告知し、参加を呼びかけています。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として自治会の奉仕作業や行事等に参加させていただき、日常的なつきあいだけでなく広く意見を求めています。 (外部評価) 開設当初から、自治会との話し合いやボランティアの受け入れ、地域行事への参加など積極的に地域と関わっている。ただ、イベント的な交流が多く、日々の近所づきあいができる関係が構築できているとまでは言えない。	※	毎年地域の盆踊りや太鼓祭りに参加させていただいており、今後も交流をもっていきます。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議では地域に貢献できる様な活動内容を、議題に取り上げ話し合っています。	※	施設を利用して地域の高齢者の健康チェックや介護教室等の開催に向けて取り組んでいます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価結果後改善点を一つひとつ丁寧に直し、前向きに取り組むほぼ改善できています。 (外部評価) 評価は今回で3回目であり、管理者も職員も評価の意義を理解している。管理者から「評価項目にはいろいろな視点があることで考えさせられます」との言葉を聞くことができ、熱心に取り組んでいることがうかがえる。	※	外部評価を受け、改善できることは積極的に改善していきたい。自己評価実施する意義を職員間で話し合い、理解し毎年取り組んでいます。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会議では毎回地域代表の方々や家族等に集まいただき、評価報告や率直な意見交換ができておりサービスの向上に活かしています。 (外部評価) ホームの開設準備段階から始めている自治会との話し合いが、そのまま運営推進会議に移行しており、ホームの運営や利用者に対するサービスについて活発な意見交換が行われている。運営法人の新規事業についても運営推進会議で合意をもらうために丁寧に説明するなど、開かれた会の運営に努めている。	※	地域の方からの要望により小規模多機能施設を申請、10月より着工来年2月頃完成予定となっています。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営上の問題や利用者の方の対応についての相談等に連絡を取り、サービスの質の向上に努めています。 (外部評価) 利用者支援のための担当課との連携、介護相談員の受け入れなど、積極的に市担当者と連携する取り組みを行っている。	※	地域包括支援センターからの依頼である介護相談員の、相談活動を受け入れています。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は該当者は居られず、活用の推進までには至っていません。	※	直面した時に迷わず支援できる様に学習会等を持ち、必要性の理解を深めたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全体会や部会等で虐待防止の学習会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。	※	常に利用者の話は傾聴するようしており、心身の様子を観察しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には重要事項説明書を基に、十分な時間をとり説明を行い理解と納得を図っています。	※	契約時にはなるべく利用者にも同席していただき、不安や疑問点が残らないように説明していきます。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は常に傾聴を心掛け、入居者が気軽に申し出る体制としており、不満や苦情等においてはその都度管理者に報告し、納得の行く対応と解決に努めています。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月の生活の様子は各受け持ちが記入し、居室に置いてあるファイルに綴じ、家族が来所時にいつでも見られるようにしています。健康状態や金銭管理においては、管理者が個々に合わせ報告しています。 <hr/> (外部評価) ほとんどの家族は頻繁に訪問があり、その機会に管理者や職員が利用者の状態を報告している。家族からも気軽に相談等がなされており、良好な関係が構築できている。また、ホーム便りを毎月発行し、家族にも郵送している。	※	毎月発行しているほほえみだよりに職員紹介コーナーを設けており、新しい職員等も家族が把握できるようになりました。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年敬老会の後に合同家族会を開催し、家族より意見や要望を出していただく機会を設けています。又苦情や要望に対しては経営者等と検討し、早めに解決していく様になっています。 <hr/> (外部評価) 意見箱の設置やアンケートの実施などで意見を収集する取り組みも行っているが、家族の不満や苦情は直接傾聴することを基本としている。職員だけでなく管理者や施設長が積極的に声をかけ、家族の話に耳を傾けている。	※	意見箱を玄関に設置しアンケート用紙を利用、記入して頂く様にしています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) デイサービスとの合同朝会や全体会等で、個々の職員が発言できる機会を設けています。	※	定期的話し合いの場を設け、運営者や管理者と職員との間で意見交換ができる様にします。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 特別なイベントや外出時等は、必要に応じた職員数を確保できるようにシフト上調整しています。	※	管理者はフリーな立場とし、急変時や家族の要望時にいつでも対応できる様にしています。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動や離職等は馴染み関係もある為、出来る限り最小限に抑える様にしています。	※	異動や新入職員に対しては引継等が円滑に行われる様に、数日の研修期間を設けています。
			(外部評価) 同法人にデイサービスセンターがあるが、異動は少ない。近年は離職者も少なく、利用者との馴染みの関係が深まっている。来年早々に小規模多機能型事業所が開設されるため多少の異動の可能性はあるが、引き継ぎ等がスムーズにいくように工夫をする予定がある。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修意欲は高く、研修後の記録や報告は的確に行っている。各職員の段階に応じ育成計画を立て、シフトを調整し研修機会を確保しています。	※	職員の意欲の向上の為に教育予算を出し、研修や他施設見学等年間計画を立てていきます。
			(外部評価) 職員は、内・外部の研修の他、グループホーム連絡協議会東予ブロックが行う相互研修等にも参加している。ホームも職員の研修を支援するために、勤務体制の工夫や年間計画等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は新居浜市地区グループホーム管理者交流会に参加、情報交換を行っている。職員も愛媛グループホーム相互研修に毎年参加できており、他事業所との交流の中でお互いのよい所を取り入れ、サービスの質の向上に繋がっています。 (外部評価) 地域のグループホームが自主的に連絡会を立ち上げ、管理者レベルの交流や情報交換を行っている。今後は職員にも連絡会への参加を促し、ネットワークを広げていく予定である。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者は職員の希望を取り入れたシフト作りに心掛け、運営者は忘年会等を開催職員を労う様になっています。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者や職員にホームに来た際には必ず会話し、職員の勤務内容や態度等状況把握に心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用開始までの間に、管理者は事前面接を行い本人との対話を大切に、不安のないよう努めています。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談時より家族の話を傾聴し、フェースシートを利用し情報収集し、家族の介護負担を共感し受け止めるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めての相談や本人との面接時にはゆっくり話を傾聴し、必要としている支援を見極め適切なアドバイス等を行っている。入居においては待機状況もあるが緊急性を考慮し対応しています。	※	新居浜市では各グループホームの待機者数の管理を行っており、毎月報告し新居浜市全体の待機情報の把握ができています。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居までにはなるべく本人にホームを見学していただいたり、併設のデイサービス利用の待機者には合同行事等の参加を勧めたりし、ホームの雰囲気に馴染める様家族等と話し合っています。 (外部評価) 新規利用者には見学や体験入居等により、ホームに馴染んでもらうよう工夫している。同法人運営のデイサービスを利用していただいていた方は既に顔馴染みになっている場合が多く、スムーズな利用が可能となっている。緊急の場合でも、利用者同士が馴染めるように、職員が積極的に取り持つよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活する中で常に声掛けやスキンシップを行いコミュニケーションを図り、お手伝い等をして下さる利用者には都度感謝の言葉を伝えていきます。 (外部評価) ケアを業務としているのに、利用者から「ありがとう」と言われると、思わず「こちらこそ」と思ってしまうと職員は笑う。対人サービスの基本である支えあう関係を垣間見ることができ、利用者と良好な関係が築かれていることがうかがえる。	※	生活リハビリの一環として、出来る方には一緒に掃除や台所仕事を手伝っていただいたり、利用者の苦労話を傾聴し共に支え合う関係を築いています。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換をしながら、本人の希望を取り入れ共有したり、一緒に本人を支えていける様に協力しています。	※	なかなか面会に来られない家族へは適宜連絡をとり、本人の希望を共有し合える関係作りに努めています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族の関係を理解できる様に職員は努めており、面会時には一緒にゆっくり話し合える雰囲気づくり等配慮しています。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会や外出等の制限はなく、本人の希望を聞きながら家族の協力を得てできるだけ支援しています。	※	家族の協力が困難な方へも管理者等が対応、支援していく様に努めます。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、本人の意向を取り入れながらも孤立することのない様に、声掛けや誘導等で共同生活が楽しく送れるように支援しています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院等によりサービス利用が終了しても、利用者や家族との関係を大切にしお付き合いを継続しています。	※	継続的な支援の必要な利用者に対しては、家族への情報提供やアドバイス等を行い、安心できる様な援助をしています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ゆっくりくつろいだ気分の時に個別に対話し、趣味や創作活動等の希望や意向を把握する様にしています。	※	困難な利用者の場合は、家族と話し合い、その人らしい生活を送れるように支援しています。
			(外部評価) 管理者や職員は利用者と過ごす時間が長く、仕草や会話から個々の思いを汲み取ることができている。しかし、利用者と一緒に生活している間に知りえた情報の記録化はなされていないため、職員間で共有化されているかの客観的な確認が難しい。	※	管理者や職員は、利用者の話を丁寧に聞きとっているため、各利用者に関する多くの情報を把握している。情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、記録化して共有する取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの馴染みの暮らし方や生活歴等を、本人や家族から聞き取り情報収集シートに記入し、職員全員が把握できる様に努めています。	※	現在はセンター方式の情報収集シートを利用していますが、もう少し記入し易いオリジナルシートの作成を検討中です。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で一人ひとりの出来る事出来ない事を観察し、状態の変化に早く気づき現状を把握する様に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 受け持ち担当者が情報を収集しモニタリングを行い、アセスメントに基づいてチームでサービス担当者会議を開催し、利用者主体の目標を立て個別性のあるケアプランの作成に努めています。 <hr/> (外部評価) 介護計画の素案を利用者毎の担当職員が立て、全職員での話し合いの上で、管理者や計画作成担当者がまとめている。家族や関係者にも相談しており、医療的な面はホームの看護師がかかりつけ医に相談し、介護計画に反映させている。	※	サービス担当者会議の開催時には本人や家族等も意見が出し合える様に取り組みたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月の更新時に見直しを行っているが入院されたり著しく変化があった場合は、早めにモニタリングを行いケアプランを変更する様にしています。 <hr/> (外部評価) 介護計画は3か月毎に、また急変等があった場合はその都度見直している。計画内容の継続や見直しについては日々のモニタリングを基に検討している。しかし、モニタリングの客観的なデータは、経過記録として記載されているが、記載内容が介護記録と直結しているとまでは言えない。	※ ※	現状に即したケアプランの見直しが、各関係者と話し合い早目にできる様にしていきたい。 モニタリングの資料として活用している経過記録は丁寧に記載されているため、貴重なデータとなっている。介護計画と関連させることで、より客観的な視点から利用者の現状を反映することが可能と考えられるので、取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のファイルに時系列で丁寧に記載しておりケアプランが反映できる様、実践や気づきが記入されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 併設のデイサービスでの行事に参加させてもらったり、介護車両を利用して載くことにより、全員の外出や個別の医療受診等の支援ができています。 (外部評価) ホームの隣には同法人が運営しているデイサービスセンターがあり、来年早々には小規模多機能型居宅介護事業所の運営も始まるため、ホームの利用者だけでなく、地域の社会資源として多機能性が発揮できる取り組みが行われている。	※	家族から宿泊の希望があれば畳を貸し出したり、食時の希望があれば食事の提供も行っています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じて、民生委員や市役所の介護福祉課等と連携を取っています。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人や家族の意向があれば保険外サービス等も受けられる様支援します。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 介護相談員の相談活動を受け入れており、地域包括支援センターと意見交換や情報交換を行う様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のかかりつけ医による月1回の定期検診と、週1回の往診は継続しており、入居時に希望を確認し協力医療機関外との連携も大切に適切な医療が受けられる様に支援しています。 (外部評価) かかりつけ医は本人や家族の希望が基本となっているが、管理者が看護師としての専門性を活かし、利用者の状態に合わせた専門医の紹介も行うなど、利用者の医療的ケアに関して柔軟で適切な対応に努めている。	※	かかりつけ医による定期の検診や往診外でも必要に応じ定期受診や専門医受診等の援助は行っています。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 毎月専門医の定期往診を殆どどの利用者が受けられており、緊急時の受診や必要に応じて指示が受けられています。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ユニットには、看護師が配置されており、医療の連携や健康管理はきちんとできています。	※	必要に応じ訪問看護の依頼も検討しています。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には看護師である管理者が同行し、早期退院ができる様医療関係者と情報交換したり退院に向けての担当者会議を依頼したりしています。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合やターミナルケアの希望がある場合は、本人や家族の意志を尊重し、繰り返し話し合い方針を決めケアプランを立て対応する様にしています。 (外部評価) ターミナルケアを実践しており、ホームでは高度の医療的ニーズが必要でない限りは看取りを行おうと話し合っている。家族とも利用者の状況に応じて話し合いを進め、看護師も3人体制としている。管理者は、終末期の実践から家族の協力は必須のものとの認識があり、ホーム内でのターミナルケアの方針の共有化にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者や家族の要望になるべく添える様にしてゆきたいが、医療行為等できない事を理解していただき、かかりつけ医と共にチームとしての支援は行っています。	※	かかりつけ医は家族や本人へきちんと説明を行い緊急時にはいつでも往診や指示が受けられる様な連携体制をとっています。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 準備時より関係者間で十分な話し合いを持つようにし、管理者は必要に応じ介護サマリー等の情報交換を行いダメージの防止に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけには細心の注意を払い、個人情報外部に漏らしたり持ち出さないようにしている。 (外部評価) 利用者への関わりは、認知症が進んでいる利用者に対しても、すぐ否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声をかけている。また、記録の管理も専用の部屋で適切に行っている。	※	記録や書類等の管理や職員への接遇教育等も適宜行い、徹底していきます。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 納得いくまで説明し本人の意思表示をしっかりと受け止め、納得いく暮らしができるよう支援している。	※	意志の疎通が困難な利用者にも常に本人の希望を確認、自己決定ができる様な支援をします。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日の日課はありますが、スキンシップや声掛けにより利用者の希望や状態を把握し、個別の希望に沿うよう心掛けています。 (外部評価) ホームとして大まかな一日の生活スケジュールは決められているが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先して支援している。また、利用者の機能維持のための日課があるが、心身の状態等を見極めながら行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 身だしなみやお洒落は本人の希望を取り入れて支援しており、男性の髭剃りは毎日声掛けや介助を行っています。散髪は家族が来所し自室で理容される人もいれば、家族同伴で美容室に行かれたり、出張理容を依頼したり個々に対応しています。	※	10月よりケアチェック日を決め身だしなみには気を配り、お化粧品等の支援もしています。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自農園で収穫した季節の野菜を使用したり、毎日買い物に出かけ新鮮な食材を購入、彩りや配膳等マンネリ化しないようにしています。お手伝いのできる人には活躍してもらい、和やかな雰囲気ですぐに食事ができる様に心掛けています。 (外部評価) 口から食べることで元気になるという思いを持ちながら、利用者のペースに合わせて食事している。職員は、利用者に声をかけながら食事が楽しくなるような雰囲気づくりに努めている。自分で食べることも楽しみであると考え、職員は極力手を出さず、気長に待つ支援に努めている。	※	嚥下障害のある方や糖尿病等の病気の方も居られますが、皆が楽しめるメニューを考えバランスよく食事ができる様に配慮しています。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒や飲み物はその人に合ったものを健康に支障のない程度に提供し、状況に応じて楽しんでもらっていますが、喫煙は今年度より火災防止の為お断りしています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の力や排泄パターンを把握し、失敗やオムツの使用が減らせる様に都度排泄チェック表で確認、早めの声掛けや誘導を行っています。	※	なるべくおむつを使用しない様にしており、失敗しても自尊心を傷つけない様に常に配慮しながら支援します。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 隔日にはゆっくり入浴できる様に支援しており、入浴時間は午後としています。希望や状況に応じ、毎日や適時の対応もしています。 (外部評価) 入浴の時間帯は午後からとなっているが、その中で順番を変える等、利用者の希望にある程度添うようにしている。訪問調査時も、見守りの必要がない利用者が自分で用意して浴室に向かっていたが、入浴が楽しみになっている様子がうかがえた。	※	介護度の高い利用者が増えていますが、シャワーチェアーを利用したり危険のない様に二人介助で浴槽にも入って頂いています。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリハビリやレクの参加を声掛け活動的に過ごしていただき、夜は気持ちよく眠れるように支援しています。各自の睡眠パターンや生活リズムを把握し、その時の状況に応じ居室だけでなく、和室等でも随時休んでいただいています。	※	不眠を訴え眠剤を希望される方も、なるべく眠剤等は使用しない様にしており、安眠できる様な環境整備に心掛けています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人に応じて職員と一緒に洗濯物干しや食事の準備・片付・掃除等のお手伝いや、楽しみながらの創作活動等その人らしい姿を発揮できるように支援しています。 (外部評価) 利用者のできること、難しいこと、介助すれば可能なこと等を職員間で話し合い、その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みを行っている。利用者が役割を達成すると感謝の言葉をかけることで、役割がやりがいになるよう配慮している。	※	趣味等が活かせる様にレクでの創作活動や俳句等を、リビングや廊下に展示しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は利用者の希望や能力に応じ本人が所持したり家族より預り、いつでも使えるように支援している。所持されている方は本人及び家族へ説明しており、職員は把握できています。	※	月2～3回移動パン販売時や買い物ツアー時には、職員と一緒に自己選択購入を支援しており、なるべくお金に触れる機会を作っています。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 併設してあるデイサービスの行事に参加させていただいたり、近くの自農園へ野菜の収穫に行ったり、車椅子の利用者も一緒にホーム周辺の散歩や外気浴等戸外への外出支援をしています。 (外部評価) 管理者や職員は、日常生活の中で外気を浴びることの大切さを認識しており、散歩は日課となっている。ホーム周辺はのんびりとした田園風景であり、玄関を出ただけでも気分を変えることができる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外食やカラオケツアーやお花見等を毎月計画し、利用者の要望を聞きながら家族へも声掛け実施しています。	※	車椅子使用等で家族だけでは外出できない利用者に対しては、事前に家族へも連絡一緒に外出できる様に支援しています。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望の電話はいつでも掛けられる様に事前に家族の理解を得ており、リビングに設置してある固定電話を利用して頂いています。	※	手紙等の文章を書く機会を設け、自主的に書ける様に支援しています。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や知人さんが気軽にいつでも訪問できるような雰囲気づくりをしており、ゆっくり過ごしていただける様子を準備したり、お茶やお菓子等で接待しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の対象となる具体的な行為を都度管理者が説明し、職員は認識できており身体拘束をしないケアを実践しています。	※	身体拘束の弊害が正しく理解できているか、適宜認識を確認しています。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常生活の中で外出傾向のある利用者は把握できており、基本的に日中は施錠をしていません。ユニット出入口口にチャイムの鳴るセンサーがあり外出を察知し早めに対応しています。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。職員の見守りと、センサーの活用で対応しており、利用者の安全には十分配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常にさりげない目配り気配りで対応しており、夜間は1時間毎の巡回と昼間は常時リビングでの見守りを施行している。居室に帰られている利用者も適時様子確認はしています。	※	夜間等コールボタンを押せず転倒の可能性のある利用者では、足元センサーを利用、早めに様子を把握し安全にトイレ介助等を行う様にしています。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、見守りや声掛けしながら個別に危険なものはチェックし、危険防止に努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を把握し、ベッドから転落の可能性のある利用者はベッドの横にマットレスを置いたり、床を衝撃防止用のカーペット張りにしたりし、ケアプランに基づき事故防止に取り組んでいます。	※	リスクマネジメントの研修に参加したり、事故防止のための学習会等を開催し、職員の認識を高めるようにしています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 利用者の行動を把握し、全ての職員が緊急時に対応できるよう、マニュアルや手順表を電話機の近くに掲示している。	※	救急救命の講習を開催し、全職員が指導を受けられる様に日程を調整していきます。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の指導を受け利用者と共に避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も実施しています。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議でも災害対策は話題になっており、地域との協力体制の構築のために働きかけを続けている。今後は、近隣住民を交えての避難訓練も計画しており、災害対策に積極的に取り組んでいる。	※	運営推進会議では地域の方々の協力を得て、災害時の非難訓練を一緒に行えるように検討しています。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) リスクについては入居時に家族によく説明して納得していただき、利用者の暮らしを大切にしよう話し合っている。	※	安全を優先して心理的な圧迫感のない様に配慮します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行っており、体調変化や異常に気付いた時は速やかに看護師等に報告し対応しています。	※	普段から各利用者のバイタル値を把握するようしており、状態の適切な判断ができる様に努めます。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者の服用する薬は把握しており、夜勤者と遅出者二名で翌日の薬出しを行い、薬確認表で毎回確認しています。	※	利用者一人ひとりの薬をケースに整理し、チェックシートに記入することで飲み忘れを防止し、指示通り服用できるように管理し、症状の変化等の確認に努めています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状況と便秘傾向の方を把握し、食事摂取量や水分摂取が不足しないようにケアチェック表で確認し、不足傾向の方には都度声掛けしています。適度な運動も勧めておりますが、必要に応じ軽い緩下剤の処方でも排便コントロールしています。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けをし、出来ているかチェックし確認表に記録して支援している。	※	利用者の状況に応じ、職員が口腔ケアを介助したり必要に応じ歯科受診の援助を行っています。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事や水分摂取量を把握し確保できる様に、都度チェック表に記録し確認しています。毎回調理検食記録表に献立や食材を記入しており、栄養がバランスよく摂取できる様に支援しています。 (外部評価) 概略のカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては、刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事・水分共に日誌に記入し、見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 外出時の手洗いやうがいを励行し、インフルエンザの予防接種は利用者、職員全員に毎年実施しています。	※	感染症の項目別マニュアルの見直しや定期的な学習会を検討しています。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理に徹底し、毎日の買い物にて新鮮で安全な食材を使用し、台所や調理用具の消毒を適時行い食中毒の予防に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関ポーチは緩やかなスロープになっており、家族や近隣の人に親しみやすく、車椅子でも安心して出入り出来る様になっています。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者がくつろぐリビングからは中庭の緑や外の景色が居心地よく映えている。玄関やテーブル、洗面所には生け花を飾って季節感を大切にしています。 (外部評価) ホームの造りが全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが圧迫感がなく、小上がりのある畳の間もある。利用者の重度化を想定して、廊下は車いすがすれ違える広さであり、安心感がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者が安心して出来る場所や仲の良い人の席の配置、ソファや椅子の配置にも工夫をしています。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長い間使い慣れたものや思い出の品や写真な等を持ち込んで貰ったり、小物や花を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫しています。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている	※	居室はフローリングであるが希望に応じ畳使用も可能としており、家族の方が泊まれるスペースも十分に確保しています。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝窓を開放して空気の入れ替えをし、日中天気の良い日は窓を開放しています。空調や換気には充分気をつけ、細目に調整を行っています。	※	利用者の体調に応じ寒い時期は、各自膝掛けを使用体温調整に配慮しています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の利用者の身体機能を把握し廊下やトイレの手摺りを利用したり、適切な歩行補助具を利用いただき自立した生活が継続出来る様に支援しています。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 楽しみながらできるリハビリやレクレーションを通し、毎日の生活の中でわかる力を理解し、自立して暮らせる工夫をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物周りは自然に囲まれており、近くには自農園があり野菜等の収穫や散歩等いつでも楽しめる事が出来ます。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	申し送りや担当者会議に参加しケアプランを確認する事で各職員が利用者全員を理解し、毎日個人別経過記録を読み把握するようにしている
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事時はなるべくリビングで職員も一緒にゆっくり食べていただき、AM・PMにはおやつタイムを取っています
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	レクや各行事等の参加を促しますが、無理強いせず本人の意志を尊重し、居室やリビングで過ごしたり、家族同伴で外出したりされている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入浴やレクリエーション等日々の生活の中で、笑顔が見られ感謝の言葉を頂いていますが意志の疎通が困難な時もあります
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	以前に比べ身体的にレベル低下の方が増えてきており、家族支援も困難となっていますが、毎月の行事予定で希望は取り入れる様にしています
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月1回はかかりつけ医の健診があり、往診等は必要に応じて随時来て頂いている
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の会話の中で状況や要望を把握するようにしています
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の来所時にはマイホーム感覚がある会話や冗談が出たり、時には手土産をいただいたりし関係作りはできております。困っていることや不安の相談は、真剣に受け止めている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	ヤクルト販売やパン販売が来所、地域の方が日舞や大正琴などのボランティアにも月に数回来られます

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	定期的な運営推進会議の実施により地域との交流や協力が得られています
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間での会話では笑顔が多く見られており、活発な会話があります
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の表情は明るく、サービスに対する不満の声は殆んど聞かれません
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からの苦情は殆んどなく来所の度お土産をいただいたり、いつも家族よりお礼の言葉を頂いています

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ①個別にリハビリプランを立て、各種機能訓練を毎朝実行しています。またマッサージ師によるリハビリは月曜日～金曜日に行っています。
- ②外気浴や気分転換の為、環境を生かして随時散歩や自農園へ収穫に出かけたり、戸外レクレーションを行ったりしています。
- ③地域交流のため、年1回夏祭りを実地し家族や地域の方を招いたり、地域の行事には積極的に参加させていただいたりしています。
- ④年中行事や季節行事、お誕生会等は、家族も交えてのサービス提供を心がけています。
- ⑤運営推進